

開山無相大師650年遠諱記念

報道資料

Commemorating the 650th
Memorial Year of
the Founder, Muso Daishi
Masterpieces of
Zen Culture from Myoshinji

妙

特別展

心



寺

2009年1月20日[火]→3月1日[日]
東京国立博物館

2009年3月24日[火]→5月10日[日]
京都国立博物館

妙心寺

ごあいさつ

このたび、東京国立博物館および京都国立博物館において、妙心寺開山無相大師650年遠諱を記念し、展覧会を開催します。

妙心寺は建武4年(1337)、花園法皇が自らの離宮を禅寺としたことに始まります。そして、開山(初代住持)として花園法皇によって迎え入れられたのが関山慧玄(諡号「無相大師」)でした。

関山慧玄やその師、宗峰妙超をはじめとする名僧たちの墨蹟や頂相、妙心寺を支援した細川家など諸大名に関する諸作品、中世以来妙心寺に伝わる唐物・唐絵、室町時代から江戸時代にいたる多様かつ華麗な屏風や襖絵、白隠慧鶴ら近世の高僧の活動を伝える墨蹟・禅画など、妙心寺の禅文化を彩る貴重な文化財は、禅宗史にとどまらず、わが国の歴史や文化を物語るうえで重要な位置を占めています。

本展は、7世紀にわたる妙心寺の歴史の中で花開いた禅の文化を、妙心寺本山ならびに塔頭の所蔵品(国宝4件、重要文化財およそ40件)を中心にをご紹介します。

多くの方々に本展をご覧いただきたく、お力添えのほど、お願い申し上げます。

2008年9月 主催者



特別展 妙心寺

妙心寺とは

現在の臨済宗では末寺3400を超え、最大規模の宗派となっている妙心寺派。その大本山である妙心寺は、京都市右京区花園に所在する。虚堂智愚、南浦紹明(大応国師)、宗峰妙超(大燈国師)、関山慧玄(無相大師)と伝わった法を、今につたえる宗派である。

開創当初の寺域は、玉鳳院、微笑庵などを中心とした一帯で、現在に繋がる規模になるのは、16世紀初頭に広大な寺地が寄進されてからのこと。以後、近世初期にかけて多くの塔頭が作られ、17世紀半ばに、三門・仏殿・法堂・寢堂が一行に並ぶ壮観な伽藍が完備する。現在40余りの塔頭をあわせた寺域は、約10万坪に及び、甲子園球場8つ分に相当する。



三門 重要文化財 慶長4年(1599)建造 東福寺三門、大徳寺三門について古い



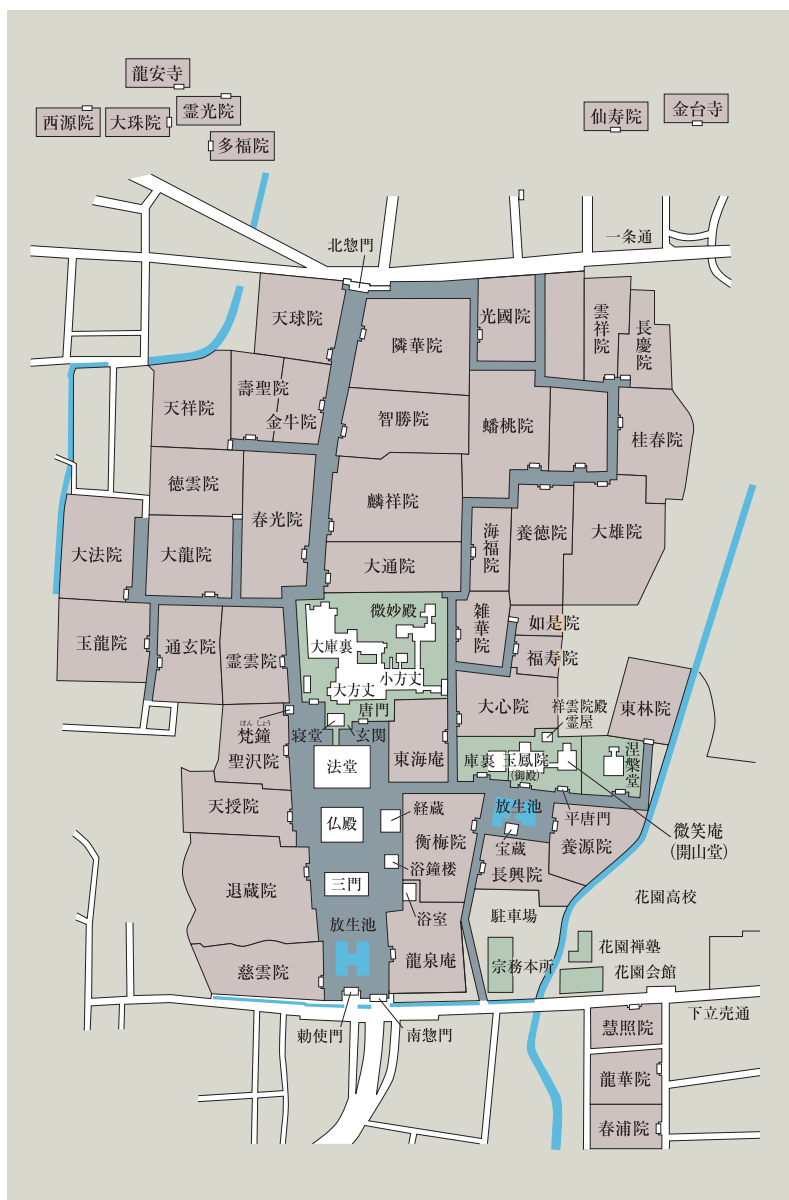
南惣門 重要文化財 慶長15年(1610)建造



法堂 重要文化財 開山300年遠諱を記念して建造され、明暦2年(1656)竣工 天井には狩野探幽筆の「雲龍図」(重要文化財)がある



玉鳳院庭園・風水泉 関山慧玄は風水泉と呼ばれる井戸の近くの大樹にもたれ、立ったまま寂したといわれる



妙心寺境内図

東京会場概要

開山無相大師650年遠諱記念 特別展「妙心寺」

Commemorating the 650th Memorial Year of the Founder, Muso Daishi
Masterpieces of Zen Culture from Myoshinji

展覧会公式ホームページ <http://www.myoshinji2009.jp>

報道お問い合わせ先 妙心寺展 広報事務局(ウインダム内)
〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-28-9 ヤマナシビル4F
Tel:03-3639-0721 Fax:03-3664-3833 e-mail:myoshinji@windam.co.jp

- 〔会場〕 東京国立博物館 平成館
〔会期〕 2009年1月20日(火)～3月1日(日)
〔開館時間〕 午前9時30分～午後5時 ※入館は午後4時30分まで
〔休館日〕 月曜日
〔主催〕 東京国立博物館、臨済宗妙心寺派大本山妙心寺、読売新聞東京本社
〔協賛〕 野崎印刷紙業
〔特別協力〕 花園大学
〔協力〕 臨済会

〔観覧料〕

	当日	前売	団体
一般	1,500	1,300	1,200
大学生	1,200	1,000	900
高校生	900	700	600

※団体は20名以上

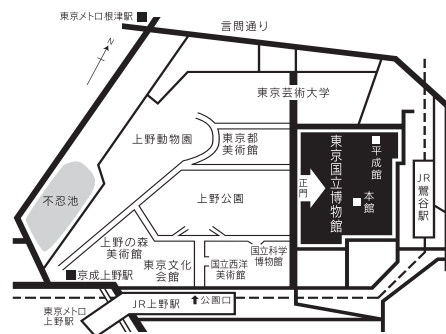
※障害者とその介護者1名は無料。入館の際に、障害者手帳などをご提示ください。

前売券は2008年10月1日(水)発売予定

- 〔チケット販売所〕 東京国立博物館 正門観覧券売場(開館日のみ)、
チケットぴあ 0570-02-9999(Pコード前売:688-306、当日:688-307)、
ローソンチケット 0570-000-777(Lコード:37626)、
イープラス <http://eplus.jp/> ほか

- 〔交通機関〕 JR上野駅公園口・鶯谷駅より徒歩10分、
東京メトロ上野駅・根津駅、京成電鉄京成上野駅より徒歩15分

- 〔一般お問い合わせ〕 ハローダイヤル:03-5777-8600
東京国立博物館ホームページ: <http://www.tnm.jp/>



京都会場概要

特別展覧会 開山無相大師650年遠諱記念「妙心寺」

Commemorating the 650th Memorial Year of the Founder, Muso Daishi
Masterpieces of Zen Culture from Myoshinji

展覧会公式ホームページ <http://www.myoshinji2009.jp>

妙心寺展 広報事務局(ウインダム内)
報道お問い合わせ先 〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-28-9 ヤマナシビル4F
Tel:03-3639-0721 Fax:03-3664-3833 e-mail:myoshinji@windam.co.jp

- 〔会場〕 京都国立博物館
- 〔会期〕 2009年3月24日(火)～5月10日(日)
- 〔開館時間〕 午前9時30分～午後6時(毎週金曜日は午後8時まで) ※入館は閉館の30分前まで
- 〔休館日〕 月曜日 ※ただし5月4日は開館
- 〔主催〕 京都国立博物館、臨済宗妙心寺派大本山妙心寺、読売新聞大阪本社
- 〔協賛〕 野崎印刷紙業
- 〔特別協力〕 花園大学
- 〔観覧料〕

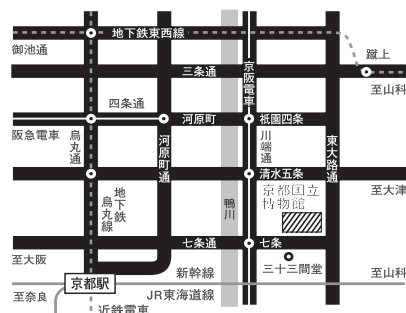
	当日	前売	団体
一般	1,300	1,100	1,000
大学・高校生	900	700	600
中学・小学生	400	300	200

※団体は20名以上

※障害者とその介護者1名は無料。入館の際に、障害者手帳などをご提示ください。

- 〔交通機関〕 JR、近鉄:京都駅下車、駅前市バスD2のりばから206・208号。またはD1のりばから100号系統にて博物館・三十三間堂前下車、徒歩すぐ。プリンセスラインバス京都駅八条口のりばから京都女子大学前行にて東山七条下車、徒歩1分
京阪電車:七条駅下車、東へ徒歩7分
阪急電車:河原町駅下車、京阪電車祇園四条駅から淀屋橋方面行きにて七条駅下車、東へ徒歩7分。
市バス:博物館・三十三間堂前下車徒歩すぐ。または東山七条下車徒歩1分

- 〔一般お問い合わせ〕 テレホンサービス:075-525-2473
京都国立博物館ホームページ: <http://www.kyohaku.go.jp/>



展覧会の見どころ

構成は東京会場のものです

第1章 妙心寺開創

妙心寺は、花園法皇(1297～1348)が花園の離宮を禅寺としたことに始まる。法皇の深い帰依を受けていた京都・大徳寺の開山、宗峰妙超(大燈国師1282～1337)は、最晩年の建武4年(1337)、法皇の求めに応じて寺の山号を正法山、寺号を妙心寺と命名し、また参禅の師として弟子の開山慧玄(無相大師 1277～1360)を推挙した。開山慧玄は、宗峰妙超に印可されたのち、美濃国(岐阜県)に隠棲していたが、法皇の招請によって京都に上り、妙心寺の開山となった。開山慧玄は自らの意志で語録や筆跡、肖像画などを残さなかったため、詳細な伝記や容姿について知りうる同時代資料がほとんど遺存せず、「没蹤跡」の禅匠と呼ばれる。

本章の展示品は、開山慧玄が師の宗峰妙超から「関山」の道号を与えられたことを証する「関山道号」(国宝、京都・妙心寺)や、花園法皇が妙心寺造営の宿願を披瀝した「花園天皇宸翰 置文(往年の宸翰)」(重要文化財、京都・妙心寺)といった、開山慧玄と妙心寺開創に関わる作品が中心となる。そのほか、玉鳳院に安置される「花園法皇坐像」の前に設えられた「楼閣人物螺鈿戸戸」(京都・妙心寺)は、最近の調査で明時代の作と推定され、本展が初公開となる。また花園法皇が用いたと伝える七条袈裟、開山慧玄が用いた九条袈裟など、開山・開基にまつわる作品を展示する。

第2章 中世の妙心寺—中興

足利義満の時代、妙心寺は重大な危機に直面する。すなわち義満は、応永の乱(1399)で敗死した大内義弘との関係を口実に、寺地・寺産を没収し、それらは青蓮院門主の義門、さらに南禅寺の廷用宗器が管理することとなり、妙心寺は中絶する。

永享4年(1432)、開山塔(微笑塔)の返還を機に、再興への模索が始まった。日峰宗舜(第7世、1368～1448)は荒廃した開山塔の傍らに一庵を結んで再建に着手すると、幕府管領の細川持之は日峰に帰依した。それが義天玄承(第8世、1393～1462)に対する細川勝元の強力な外護に発展し、龍安寺の創建、龍安寺での開山慧玄(無相大師)100年遠諱の開催などが実現し、妙心寺の復興も進む。しかし、応仁の乱により両寺とも焼亡する。乱後の復興につとめた雪江宗深(第9世、1408～86)は、後土御門天皇から妙心寺再興の綸旨も得て、これまでの歩みを後戻りさせない体制を築く。すなわち四人の高弟、景川宗隆(1425～1500)、悟溪宗頓(1416～1500)、特芳禅傑(1419～1506)、東陽英朝(1428～1504)の法系による輪番住持制の制定、寺院会計法の確立など、復興と発展の基本を整備した。さらに、永正6年(1509)、利貞尼による広大な寺地寄進は、その後の発展の礎となった。

この章では、日峰宗舜以下各僧の頂相と墨蹟、外護者ゆかりの品々、復興の画期となる綸旨や宸翰類などに、中絶から再興に至る苦難の歩みをたどることとする。

展覧会を知るおもな関連用語

遺墨【いぼく】今に伝わる書跡の遺品のこと。

印可【いんか】悟ったことの証明。

黄鐘調【おうじきちょう】雅楽の音調のひとつで、鐘の音として理想とされる調子。

遠諱【おんき】開山、開基、中興の祖などの遺徳をたたえるため、五十年忌以後、五十年ごとに行う法要。

開基【かいき】寺院開創時に経済的に支援する世俗の信者。

偈【げ】悟りを詩の形で述べたもの。

外護【げご】仏法を教団や宗派の外側から擁護すること。

公案【こうあん】修行者を悟りに導くための一つの手段として、師から与えられる問題。

山号【さんごう】寺名の上に付けられる山の称号。

妙心寺

第3章 伝世の名宝

妙心寺に伝わる多くの工芸品は、本来は仏具であり荘厳具であるが、そのほか寄進等によって寺宝となった絵画・書跡も見逃せない。それらは、時とともに名宝としての存在感を高め、妙心寺の歴史を彩る。本章では、なかでも選りすぐりの寺宝を紹介する。

まず、はじめに注目される仏具は、国宝の「梵鐘」であろう。内側の銘文、戊戌年4年(698)は、梵鐘として国内最古の年号で、また、音のよさから黄鐘調の鐘と呼ばれる名鐘である。さらに、妙心寺には、中国・南宋時代に遡る青磁の香炉や安土桃山時代の燭台や灯台が伝わっており、それらに禅宗寺院における堂内供養具の様相が窺えるのも貴重である。

その他、退蔵院に伝わる「瓢鮎図」(国宝)は、教科書等でも馴染みの深い室町水墨画を代表する名品で、足利將軍家に仕えた如拙の代表作である。また、東海庵に伝わった中国・元時代の「十六羅漢図」(重要文化財)、鎌倉時代後期の写経の代表的名品である「法華経」(万里小路宣房筆、重要文化財、京都・天球院／天授院)など、名品群が一堂に会する。

第4章 近世の妙心寺—全盛期の輝き

応仁の乱後、妙心寺は各地で勢力を伸ばしてきた戦国大名との結びつきを強めていった。武田信玄が師事し甲斐恵林寺に寂した快川紹喜、伊達政宗の遺言により松島の瑞巖寺中興開山となった雲居希膺など、戦国武将の帰依をうけて活躍した僧が輩出した。安土桃山時代から江戸時代前期にかけては、大名家の外護により、塔頭の創建が相次いだ。また、形骸化した禅から脱却し、徹底した修禅によって悟りを追求する正法復興運動が起こり、禅風刷新が叫ばれた。この流れをうけて江戸時代中期に白隠慧鶴が登場するが、彼らの遺墨には一貫して清新で真摯な気風が漂っている。

さて、この章では、各塔頭の開基の像と開山などの頂相、および近世妙心寺を代表する禅僧の墨蹟、また山内を飾った襖絵、屏風絵、工芸品を展示する。これらは、各時期の美術工芸史上、貴重なものばかりである。その一つ、「妙心寺屏風」とよばれる、狩野山楽・海北友松が描いた高さ2メートルにおよぶ豪快華麗で迫力あふれる屏風を展示する。さらに、かつて塔頭の天祥院を飾っていた狩野山雪筆「老梅図襖」が、アメリカから里帰りする。

諡号【しこう】高僧の死後、その徳の高さを偲んで贈られる称号。

示寂【しじやく】高僧などの死をいう。

宸翰【しんかん】天皇の筆跡のこと。

塔頭【たっちゅう】当初は高僧の墓所に建てられた塔、およびそれを護る庵であったが、現在、多くは末寺として本山を支えつつ、法的には本山から独立した寺院となっている。

頂相【ちんそう】禅僧の肖像画。

道号【どうごう】修行を奨励するため、修行者に与える号。

方丈【ほうじょう】本来は禅宗寺院における住持の居所。現在では、各種法要や賓客応接の場として用いられる。

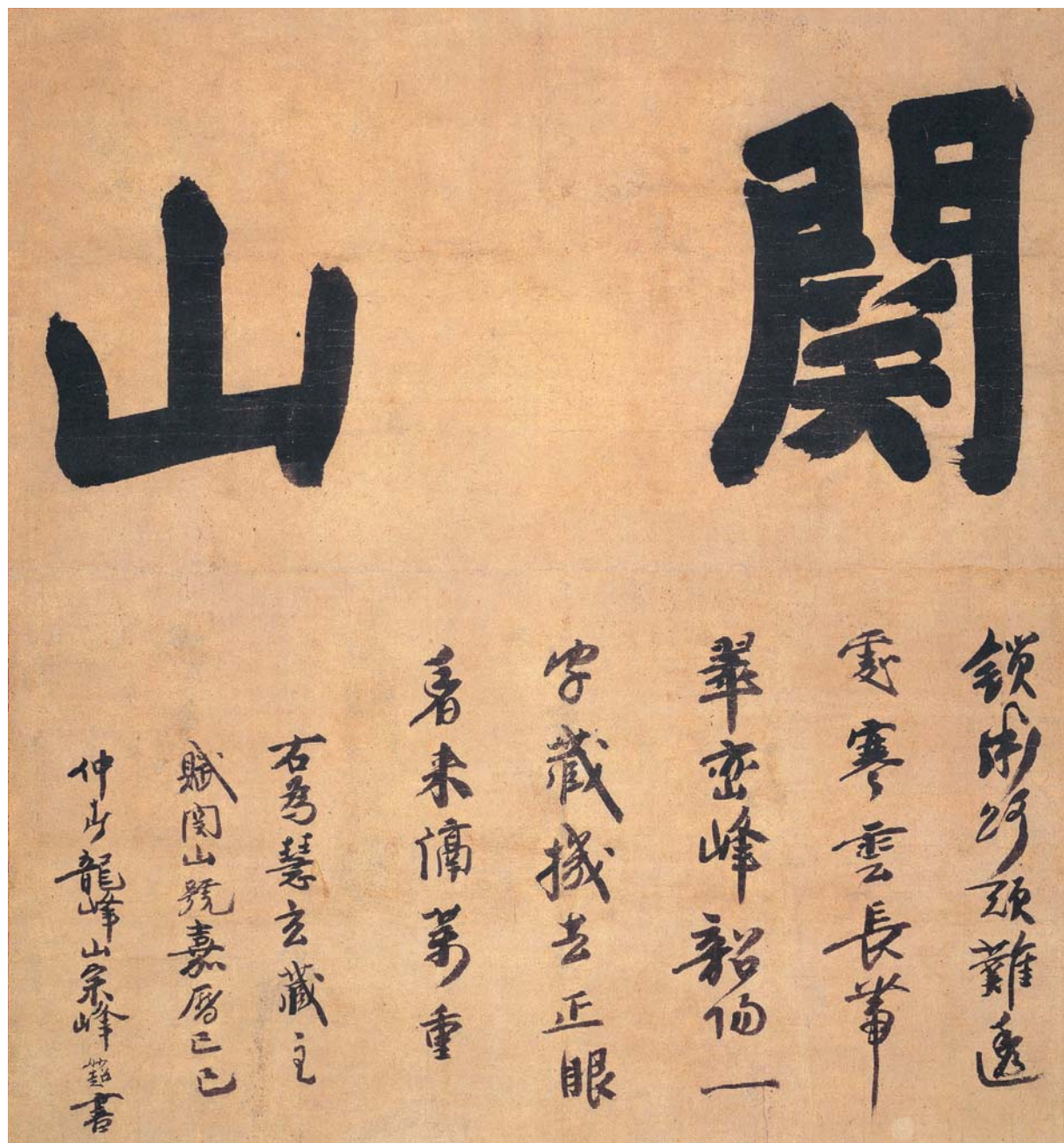
墨蹟【ぼくせき】禅宗とりわけ臨済宗の高僧の書のこと。

微笑塔【みしょうとう】妙心寺開山・開山慧玄の墓所。

没蹤跡【もっしょうせき】足跡を残さないこと。何の手がかりも残さないこと。

遺偈【ゆいげ】死を前にしたためた偈。

綸旨【りんじ】天皇の言葉を伝える文書のこと。



1.

国宝 宗峰妙超墨蹟 関山道号

鎌倉時代・嘉暦4年(1329) 京都・妙心寺蔵

徹底した修行の果てに雲門関という公案によってさとりをひらかれた関山慧玄(無相大師)に、師の宗峰妙超(大燈国師)が授けた「関山」の道号と、道号に添えた偈からなる。愛弟子への激励の意を込めたその書は、重厚な風格をそなえ、独自の氣迫に富む。妙心寺の屈指の重宝である。



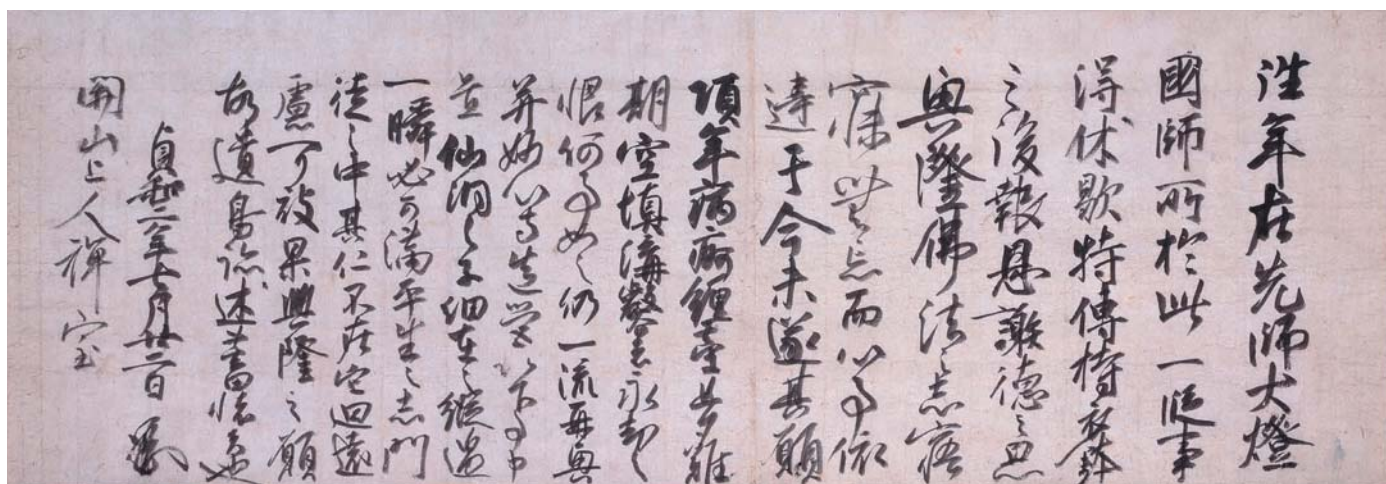
2.

重要文化財 花園法皇像

後花園上皇賛

南北朝時代・14世紀 京都・妙心寺蔵

妙心寺開創を発願した花園法皇(1297～1348)の画像である。法皇は、黄褐色に染めた僧綱衣と袈裟を着け、浅葱色の指貫をはき、左手に数珠を持ち、上畳に坐す姿に描かれ、内省的な眼差しが印象的である。図の上部には、妙心寺住持(第9世)を務めていた雪江宗深の求めに応じ、後花園上皇が賛を書している。



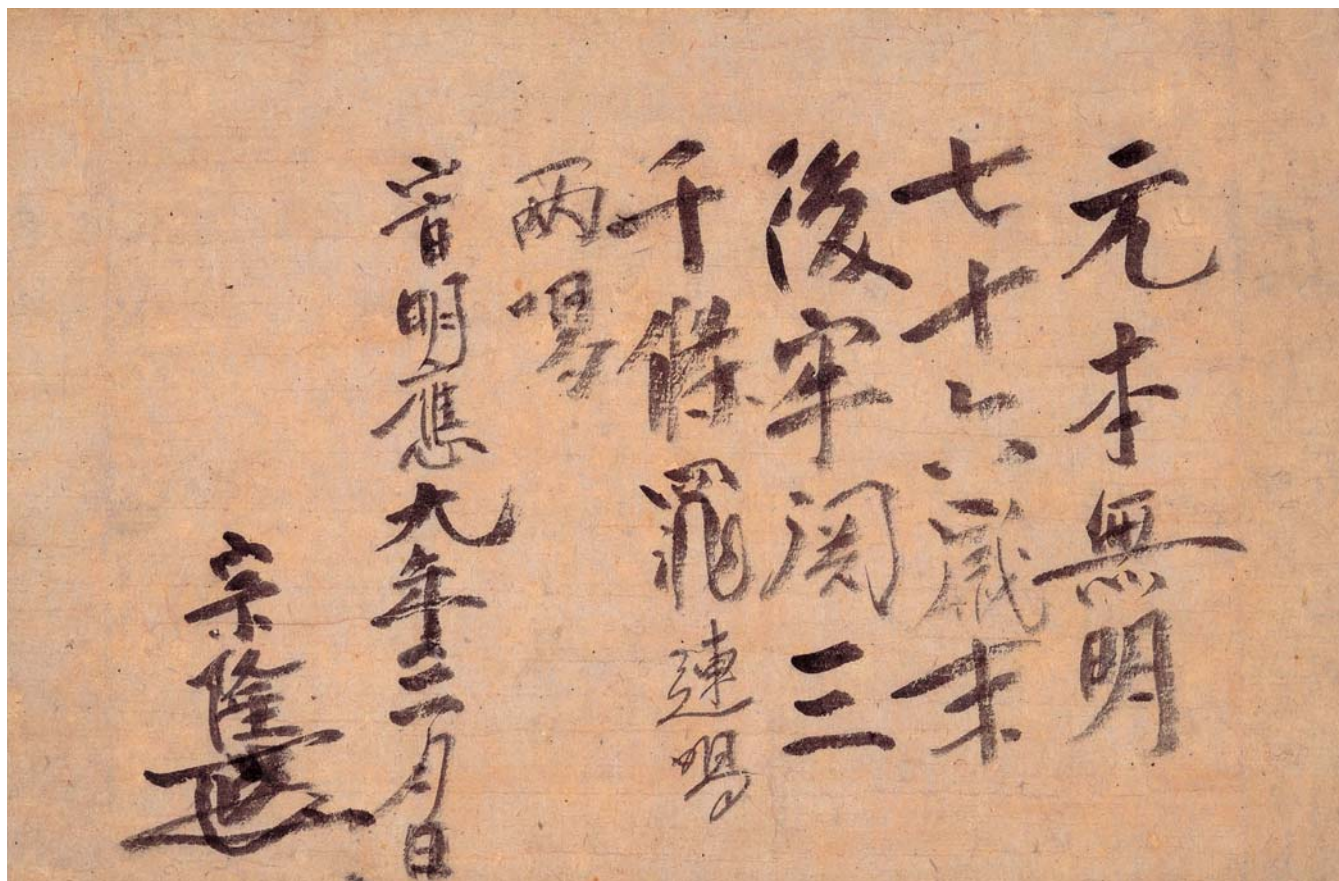
3.

はなぞのてんのうしんかん おきぶみ

重要文化財 花園天皇宸翰 置文

南北朝時代・貞和3年(1347) 京都・妙心寺蔵

貞和3年(1347)、病床にあった花園法皇(1297～1348)が開山・関山慧玄に妙心寺の造営を約束した手紙で、「往年の宸翰」とよばれる。文面には、法皇晩年の仏法に対する熱い想いととも、教えを文字にして残さなかった開山の人となりが表れている。



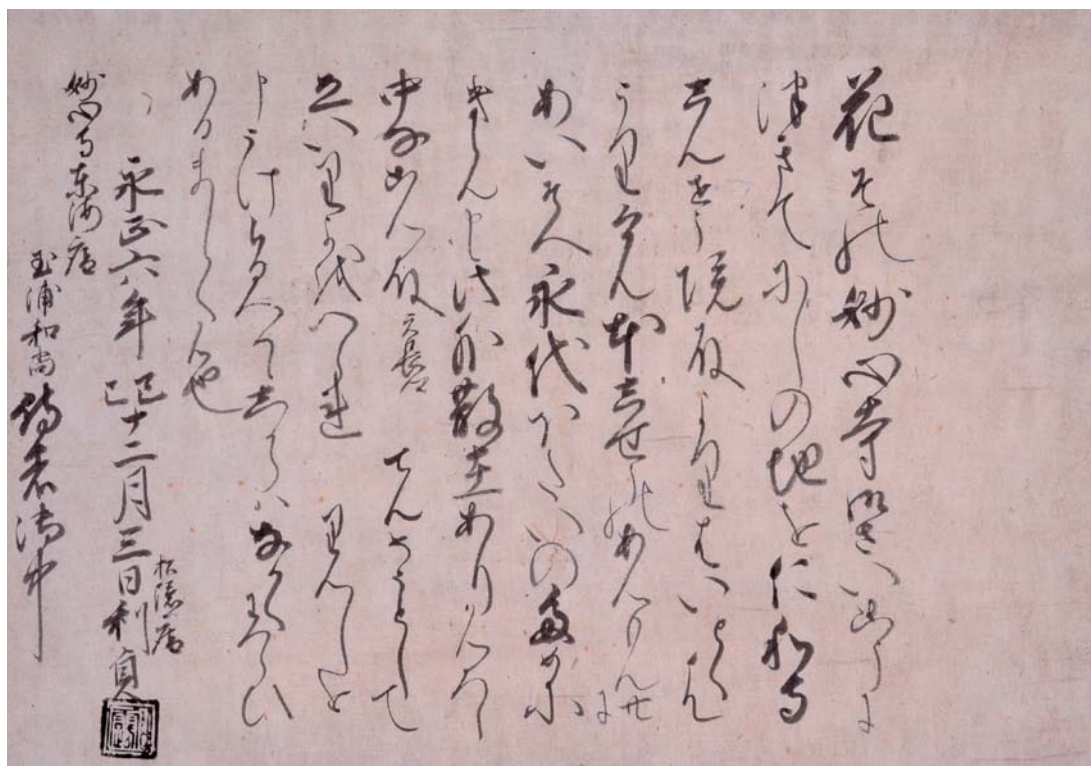
4.

景川宗隆墨蹟 遺偈

室町時代・明応9年(1500) 京都・龍泉庵蔵

景川宗隆(1425～1500)は雪江宗深^{せつこうそうしん}の高弟の一人。日夜坐禪に励み、師とともに妙心寺の再興に尽力した。これは、示寂^{じじやく}の直前、弟子に請われて書きのこしたものの。妙心寺派の名僧の遺偈として現存最古であり、貴重な墨蹟である。

※東京会場のみ出品



5

5.

りていにしきち きしんじょう
利貞尼敷地寄進状

りていに
利貞尼筆

室町時代・永正6年(1509) 京都・妙心寺蔵

6.

りていにぞう
利貞尼像

室町時代・16世紀 京都・妙心寺蔵

りていに
利貞尼(1455～1536)は、美濃の斎藤利国(さいとうとしくに)の妻。亡夫追悼のため、悟溪宗頓(ごけいそうとん)(1416～1500)に帰依した。永正6年(1509)、買得した仁和寺真乗院(にんな じしんじょういん)の土地を、妙心寺再興のために寄進。妙心寺には、そのとき利貞尼が自ら書いた敷地寄進状が伝来する。これにより妙心寺の寺域は大いに広がり、のちの発展の礎(いしず)となった。



6



7.

国宝 梵鐘

飛鳥時代・文武天皇2年(698) 京都・妙心寺蔵

上下に流麗な唐草を表し、細長いスマートな形で、蓮華文の撞座がひじょうに高く、頂部の竜頭正面と同じ方向にあるなど、日本の梵鐘で最も古い特徴をみせる。文武天皇2年(698)、今の福岡県粕屋郡の長、春米連広国が鑄造させた旨の銘文がある。



8.

国宝 瓢鮎図

如拙筆 大岳周崇等31名賛

室町時代・15世紀 京都・退蔵院蔵

よく知られる室町水墨画の名品で、如拙の代表作。

「瓢箪で鮎魚（鯰）を押さえ捕れるか」という足利4代将軍・義持の問い掛けに応じて描かれたことが知られ、図上には31名にも上る五山僧たちの「答え」も記されている。



[部分]

9.

きくからくさもんたいまいら でんごうす 菊唐草文玳瑁螺鈿合子

高麗時代・13～14世紀 京都・桂春院蔵

高麗時代の螺鈿作品は希少であり、この合子は小さいながらも保存状態が非常に良い。この変わった形は一般に「洲浜形」と称されており、花形や円形の合子の周りに4つの洲浜形合子が組み寄せられ、化粧道具として用いられたと考えられている。



10.

重要文化財 豊臣棄丸坐像

安土桃山時代・16世紀 京都・隣華院蔵

重要文化財 玩具船

安土桃山時代・16世紀 京都・妙心寺蔵

豊臣棄丸(鶴松)は秀吉念願の実子であったが、わずか3歳にして夭逝する。その葬儀は妙心寺でとりおこなわれ、寺内に御霊屋が築かれた。本玩具船は、実際に棄丸が乗って守り役に引かせたもので、その肖像とともに御霊屋へと納められた。



[右隻]



[左隻]

11.

重要文化財 かきずびょうぶ 花卉図屏風

かいほうゆうしやう
海北友松筆

安土桃山～江戸時代・16～17世紀 京都・妙心寺蔵

桃山絵画の巨匠、海北友松（1533～1615）の名品で、水墨技法を着色画に応用した力強い描写が見事である。妙心寺には、本作はじめ友松や狩野山楽による桃山期の著名な大作が伝わり、「妙心寺屏風」と呼ばれる。高さ2メートルにおよぶそれら迫力の屏風群を公開！



[右隻]



[左隻]

12.

重要文化財 龍虎図屏風

狩野山楽筆

安土桃山～江戸時代・16～17世紀 京都・妙心寺蔵

狩野山楽(1559～1635)が「妙心寺屏風」と呼ばれる背の高い屏風に描いたもの。右隻では龍が黒雲の中から姿をあらわし、左隻は雌雄の虎(豹は当時雌虎と考えられていた)がこれに對峙して吼えかかる。力感にあふれた大画面が見るものを圧倒する。

妙心寺展に関するアンケート

特別展 妙心寺

FAX 03-3664-3833 妙心寺展 広報事務局行き

1. 本展を記事・番組でご掲載いただけるのでしょうか？

☐ はい☐ 検討中（ 月 日ごろ確定）

2. ご紹介いただける場合、いつ頃の放送・発売／配付で、どのような内容になりますか？

月 日発行（ 月号）・放送 未定／ 月 日ころに決定する

番組名、掲載紙誌、掲載面（ページ）、内容などをご記入ください。

〔放送エリア／ 発行部数／ 〕

3. ご紹介いただける場合、写真はご使用になりますか？

☐ はい広報用に画像データ(JPEG)をご用意しております。
ご希望の場合は、別紙の画像データ借用申込書にご記入の上、ファックスにてご請求ください。☐ いいえ（写真は使用せず、文字掲載のみ）

4. ご紹介いただける場合、招待券プレゼント（5組・10枚まで）をご希望になりますか？

（ただし、写真つきでご紹介いただける場合は、10組分までご提供いたします）

☐ はい ご希望枚数 枚☐ いいえ

■そのほか、事前取材や会場撮影などの取材を希望される場合は、別途広報事務局までお問い合わせください。

貴社名	媒体名	ご担当者
ご住所（〒 ー ）		
TEL（ ）	FAX（ ）	
e-mail		

※お手数ですが、ご掲載頂いた場合は掲載紙・誌、または同録ビデオ・DVD等を広報事務局あてにお送りくださいますよう、お願い申し上げます。

報道関係お問い合わせ先

妙心寺展 広報事務局(ウインダム内)
〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-28-9 ヤマナシビル4F
Tel:03-3639-0721 Fax:03-3664-3833

画像データ借用申込書

特別展

妙心寺

FAX 03-3664-3833 妙心寺展 広報事務局行き

広報用に画像データ(JPEG)をご用意しております。

ご希望の場合は、この申込書に必要事項をご記入の上、ファックスにてお申し込みください。

報道資料および下記のリストをご参照の上、□に✓印をお付けください。

番号	指定	作品名	賛・作者名など	所蔵先	展示期間
☐ 1	国 宝	宗峰妙超墨蹟 関山道号		京都・妙心寺蔵	前期(～2/8)
☐ 2	重要文化財	花園法皇像	後花園上皇賛	京都・妙心寺蔵	前期(～2/8)
☐ 3	重要文化財	花園天皇宸翰 置文		京都・妙心寺蔵	後期(2/10～)
☐ 4		景川宗隆墨蹟 遺偈		京都・龍泉庵蔵	東京展のみ出品 全期間展示
☐ 5		利貞尼敷地寄進状	利貞尼筆	京都・妙心寺蔵	全期間展示
☐ 6		利貞尼像		京都・妙心寺蔵	後期(2/10～)
☐ 7	国 宝	梵鐘		京都・妙心寺蔵	全期間展示
☐ 8	国 宝	瓢鮎図	如拙筆 大岳周崇等31名賛	京都・退蔵院蔵	後期(2/10～)
☐ 9		菊唐草文玳瑁螺鈿合子		京都・桂春院蔵	全期間展示
☐ 10	重要文化財	豊臣棄丸坐像		京都・隣華院蔵	全期間展示
	重要文化財	玩具船		京都・妙心寺蔵	全期間展示
☐ 11	重要文化財	花卉図屏風	海北友松筆	京都・妙心寺蔵	後期(2/10～)
☐ 12	重要文化財	龍虎図屏風	狩野山楽筆	京都・妙心寺蔵	前期(～2/8)

貴社名	媒体名	ご担当者
ご住所 (〒 —)		
TEL ()	FAX ()	
e-mail	画像到着希望日	
放映／掲載予定時期		

[写真ご使用に際してのお願い]

○作品写真(1～12)をご使用の際には、指定(国宝/重要文化財)、作品名、作者名、所蔵先および展示期間(展示替のある作品のみ)を記載してください。展示期間の詳細はデータご提供時に広報事務局からお伝えいたします。

○写真のトリミングおよび文字のせはできませんので、ご了承ください。

○作品写真の使用目的は、本展のご紹介のみとさせていただきます。

○本展覧会の終了後の使用は一切できませんので、ご了承ください。

○その他、ご不明な点は、下記広報事務局までお問い合わせください。

※掲載記事・番組内容について、基本情報確認のためゲラ刷り・原稿の段階で下記広報事務局までファックスにてお送りください。

※お手数ですが、掲載紙・誌、または同録ビデオ・DVD等を下記広報事務局あてにお送りくださいますよう、お願い申し上げます。

報道関係お問い合わせ先

妙心寺展 広報事務局(ウインダム内)

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-28-9 ヤマナシビル4F

Tel:03-3639-0721 Fax:03-3664-3833